



うずしお 4月

見るところ花はなけれどよき住居(すまい)

1943年4月9日、正岡子規の弟子である高浜虚子が詠んだ句です。

令和8年4月9日は新入生を歓迎した桜が咲き、そして今日から三年間過ごす良きすまい、大島中学校がここに在ります。新入生の入学を心待ちにしていました。今日からまた、にぎやかで活気あふれる大島中学校に戻ります。

さて、本来ならば大島中の魅力をしっかり説明しなければならない立場ですが、実は私も皆さんと同じく、この四月から仲間へ新規加入した一人です。そこで、生徒会長に本校について質問しました。大島中生は、時に少し羽目を外してしまうところもあるけれど、いざとなればそれぞれの個性を発揮しながらまとまることができる集団。そして、大島中学校を学年の枠にとらわれず、強い団結力で結ばれた家族のような存在にしたいと力強く答えてくれました。

家族となれば、見えなくとも確かな絆で結ばれています。時にはぶつかり話をしなくなることもあります。ただ、それも一時のものでどちらからも仲直りのための行動が見られ、そのほころびは自然に修復されていきます。「大島中は家族」校長としても、やりがいのある課題を与えてもらい、春の霞が取り払われたように感じました。

(令和8年度入学式 校長式辞の要約)

では、家族になるにはどうすればいいのでしょうか。歌手の福山雅治さんが作詞・作曲した「家族になろうよ」の中に『明日の私はそれほど変わらないとしても、一歩ずつ与えられる人から与える人へかわってゆけたなら』という歌詞があります。お互いに与えられたり与えたりしていれば、気付いた時には掛け替えのない家族同然の関係になっているはずです。

「大島中は家族」そのために大切なことを、私は“思いやりの気持ち”と考えます。AIは、思いやりとは「**相手の立場や心情を察し、配慮して行動する心構え**」と回答しました。

学校で先生が生徒に、「自分が嫌なことを相手にはしない」と説きます。けれども家族であれば「家族に喜んでもらえる、うれしいと思ってもらえること」を、そのときの表情も思い浮かべながら行動しませんか。素直でいざとなればしっかりまとまることができる大島中生です。明るい挨拶の声と笑顔一杯の家庭(大島中)にしましょう。

大島中学校校長



(4月21日島四国遠足にて)

17名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます!

4月9日(木)に第12回『今治市立大島中学校入学式』が行われました。新入生17名を迎え、令和8年度大島中学校がスタートしました。ご臨席いただきましたご来賓、保護者の皆様、誠にありがとうございました。



中学生になって (一部抜粋)

私は誰かに言われなくても、自分で考えて行動することが大切だと思いました。人に言われて行動するのではなく、自分で周りを見て考えて行動することを意識したいです。

1年生女子

私は、学級委員長としてみんなが安心して学校生活を送れるようにクラスをまとめることと、みんなを手助けしていきたいです。そして明るく仲の良いクラスにしていきたいです。

1年生女子



地域を知る活動(遠足)～島四国へんろ市への関わり～

4月21日(月)、島四国遠足を実施しました。中学校をバスで出発した後、宮窪地区の余所国から友浦を経由し、吉海地区の仁江まで計23か所の札所を巡りました。活動を通して大島の文化遺産への理解を深めるとともに、地域の方々の温かい「お接待」を肌で感じることで、その精神の継承や札所・へんろ道の保存の在り方について改めて考える貴重な機会となりました。ご協力いただいた地域の皆様、本当にありがとうございました。



地域の歴史に触れてすごく楽しかったです。小学校と中学校の違いを改めて感じる事ができました。また、お接待をたくさんしてもらうことで、地域の方々とたくさん関わることができました。来年もみんなで助け合いながら、遠足を楽しんでいきたいです。

1年生男子

島四国遠足を振り返ると19kmの道のりで山道もありましたが、いざ歩いてみると楽しくて一瞬でした。地図が難しくて、ルートがわからないときもありましたがとても良い思い出です。また、地域の方ともあいさつをして、すごく温かったです。たくさんの元気、パワーをもらいました。219年も続く、大島の伝統を守り、大島中全員が家族として頑張ります。

2年生男子

中学校ラストの島四国遠足、楽しむことができました。こうして郷土の文化に触れながら、地域の方々と「ありがとう」を言い合える誇らしさと大島中学校生の家族のような深い絆に改めて気が付いた一日でした。これから取り組む行事すべてに「中学校最後」というワードが付いてきます。時が過ぎる早さへの驚きと同時に最上級生としての責任感を再確認しました。

3年生女子

